

Association of blood pressure after peritoneal dialysis initiation with the decline rate of residual kidney function in newly-initiated peritoneal dialysis patients

黒木, 裕介

<https://hdl.handle.net/2324/4784719>

出版情報 : 九州大学, 2021, 博士 (医学), 論文博士
バージョン :

権利関係 : (c) 2021 Kuroki et al. This is an open access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution License.

氏 名： 黒木 裕介

論文名： Association of blood pressure after peritoneal dialysis initiation with the decline rate of residual kidney function in newly-initiated peritoneal dialysis patients

(新規腹膜透析導入患者における、腹膜透析導入後血圧と残存腎機能低下速度との関係)

区 分： 乙

論 文 内 容 の 要 旨

背景：腹膜透析患者において、残存腎機能（residual kidney function：RKF）は生命予後への影響因子として数多く報告されている。また、血圧低下は、腎代替療法を受けていない慢性腎臓病患者の緩徐な腎機能低下と関連している。しかしながら、腹膜透析（peritoneal dialysis：PD）患者におけるこの関係についての報告は限られている。今回我々は後ろ向きコホート研究において、血圧とRKF低下との関連を評価した。

方法：1998年から2014年の間にPDを開始した228人の患者を本研究に登録した。24時間蓄尿におけるクレアチニンと尿素窒素のクリアランスの平均をRKFとして算出した。患者各々のRKFの回帰直線を算出することで、RKFの年当たりの低下速度を算出した。低下したRKFは指数関数的に低下すると考えられるため、RKFの対数（log RKF）による年当たりの低下速度もまた算出した。2018年の高血圧管理に対する欧州心臓病学会および欧州高血圧学会ガイドラインを基に、PD開始後3か月の患者血圧（BP_{3M}）を4つのグループ（至適群、正常および正常高値群、グレード1高血圧群、グレード2・3高血圧群）に分類した。

結果：未調整、年齢・性調整、多変数調整を行ったRKFおよびlog RKFの低下速度は、BP_{3M}が高くなるにつれ有意に低下した（傾向性 $p < 0.01$ ）。至適群と比較して、RKFおよびlog RKFの中央値より低下速度の速い群に対するグレード2・3高血圧群の多変数調整オッズ比と95%信頼区間（confidence interval：CI）は、それぞれ4.04（CI：1.24-13.2）、5.50（CI：1.58-19.2）であった（ $p < 0.05$ ）。

結論：PD開始後の血圧高値は、PD患者のRKFのより速い低下と関連している。